

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>かつひろの家理念 ～尊厳ある生活の構築～ 一、ゆっくりと穏やかに 一、のんびりと楽しく 一、一緒に笑顔で暮らす家</p>	○	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念は見えやすい場所に掲示しており、来客者はもちろん、職員一人一人が常に意識し、日々の介護に活かしている。</p>	○	一人一人の”笑顔”を大事に、日々のケアに取り組んでいる。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>見学、面会時に見えやすい場所に掲示している。利用者、ご家族に対しては、入居契約時に提示し説明している。</p>	○	今後も継続
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所を散歩する方と挨拶を交わしたり、近隣のベビーホームの子供達も散歩途中に立ち寄ってくれている。また、時々、観葉植物を持っては訪問してくれる方もある。</p>	○	今後も継続し、関係を築いていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>併設するさくらの郷の行事に参加。自治会の夏祭りに出かけた。ベビーホームの夕涼み会に招待され出かけたり、かつひろの家の畑で収穫した野菜を届けたりの交流あり。</p>	○	今後も積極的に地域の行事には参加し、交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生やボランティアの受け入れをしている。	○	今後も継続
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果は、職員会議等で報告し、改善に向け努めている。	○	改善計画をたて、サービスの質の向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価の報告と外部評価の結果の報告をし委員の方からの意見や要望を受けるようにしている。また、会議だけにとどまらず、畑で収穫した野菜を使っの食事会を行った。	○	今後も継続し、サービスの質の向上に努める。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報や各種書類を届けたりと、行き来する機会を作っている。待機者状況などの報告も。	○	今後も継続し、サービスの質の向上に努める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員が理解しているとはいえないが、必要と思われる利用者、家族には主任等が情報提供している。	○	勉強会を行い、理解深める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを基に勉強会を行っている。	○	研修会への参加

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に対し、サービス内容、利用料の他、事業所としてのケアの考え方や取り組み等、十分に説明し同意を得るようにしている。利用者の状態変化により、止むを得ず契約解除となる場合にも、十分な説明と話し合いを持ち対応している。	○	今後も継続
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話の中から探っている。	○	今後も継続
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の状態報告はもちろん、緊急時には、速やかに連絡をし、通院等の対応している。面会の少ない方にも、定期的に電話で報告。金銭管理は毎月報告。遠方の家族にも広報郵送。	○	遠方の家族への広報郵送の継続
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口設置の説明している。(法人、市町村)家族アンケート実施。	○	家族アンケートの継続
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に参加し、意見や提案を聞く機会を設けている。	○	今後の継続
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院、行事等、必要に応じて柔軟に勤務の調整行っている。	○	今後も継続
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えられている。やむを得ない場合には、利用者、家族への説明を十分行うよう配慮している。	○	馴染みの職員が継続して支えていけるような体制をとる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協会の定例会に参加。段階に応じて外部の研修にも参加。職員会議の中で、研修の報告会も行っている。ケアの実践的なことについては、主となる職員が随時アドバイスしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も研修会に参加するよう計画的に取り組む。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の定例会に参加(月一回)し、情報交換している。必要に応じ、電話での情報交換あり。</p>	<p>○</p> <p>積極的に交流の機会を持ち、情報交換しながらサービスの質の向上に努める。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員互助会があり、スポーツ交流会を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者も現場に来て、利用者とお茶を飲む機会を設け、勤務状況の把握している。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話による相談があった時は、本人も交え見学を勧めている。そこでお茶を飲みながら状況把握や関係づくりに努めている。</p>	<p>○</p> <p>居宅介護支援事業所の介護支援専門員等と連携しながら、本人、ご家族にとって最適なサービスを受けられるよう努力する。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いや訴えを十分に聴くように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けても待機者が多く、スムーズに利用していただける状況ではなく、本人やご家族の状況を確認し、他の事業所のサービスにつなげる等の対応している。	○	今後も継続
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や遊びに来ていただきながら、雰囲気にならないうちに馴染んでいただけるよう工夫している。	○	今後も継続
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごすことを重視し、一緒に歌を歌ったり、気のすむまで歩いたり。共に過ごすことで学びも多く、昔懐かしいおやつ作りなどもしている。畑づくりも教えていただきながら行っている。	○	昔ながらの風習や慣わし等教えていただいている。お互いを尊重しながら、支えあう関係を築くよう努める。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、日々の様子や気づきの情報共有に努めている。	○	今後も継続
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族からの情報を得ながら、外出tあや外泊の希望にも応えている。本人からの希望で電話の取次ぎ関係の維持に努めている。	○	パイプ役となれるよう、こまめに状態の報告や相談をするよう心がける。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方の定期的訪問があり、関係が継続されている。地域の商店に買い物に出かけたりしている。	○	地元商店街の利用とふるさと巡りの継続。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事を一緒にとり会話を多く持つようにしている。個々に家事参加しており、その中でもお互い協力し支えあえるよう常に見守るよう心がけている。椅子を引いてあげたり、菓子の包みを開けてあげたりの関係あり。	○	利用者が孤立せず楽しく過ごせるよう場面づくりに努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事等で会えば声をかけ、様子を伺っている。	○	今後も継続
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式活用し、本人の思い、希望、意向の把握に努めている。意思疎通困難な方でも、表情や行動から汲み取る努力をし、家族から情報を得るようにしている。	○	センター方式活用
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りだけでは把握しきれないため、面会の時などに情報得ている。	○	今後も継続し、把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメントを行い、生活リズムの把握に努めている。できないことより、できることに注目するようにしている。	○	センター方式活用
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議の際に、アセスメントを含め、意見交換やモニタリングを行っている。家族からの情報も反映させるような介護計画を作成している。	○	本人・ご家族の意向をふまえ、実行可能な介護計画を目指す。ご家族に介護計画を説明し、同意を得ている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回の見直しのほか、状態変化があった場合は、都度、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	○	生活保護の方は、定期的に、市の生活保護係に介護計画の提示している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々行ったことを個別のケース記録に記録(野菜の皮むき、草履作り等)。潜在能力、可能性を探り、最大限活かす努力している。	○	今後も継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて通院の援助行っている。また、外出希望される方にはドライブに出かけたり柔軟に対応している。	○	要望に柔軟に対応し支援していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接施設との交流。地域の方の訪問あり、茶話会や昔話のボランティアある。フラダンス慰問。	○	今後も継続
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外部からのサークル活動への誘い合ったが、参加には至らず。近隣事業所での歌、踊りなどの慰問に誘われ参加。	○	継続し、他事業所の活動にも可能な限り参加。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実施の事実なし	○	必要に応じて長寿社会課と連絡をとり、指示を仰ぐ。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医に継続して通院している。家族同伴の通院、都合で職員が通院介助することもあるが、医師への状態報告、また、家族への通院結果報告十分に行い、関係築いている。利用者の状態によって、訪問診療していただいた。	○	利用者及びご家族の希望する医療機関の受診。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医を受診している方はいない。	○	地域での専門医を捜す。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員に相談したり、個々のかかりつけの病院の看護師と相談し指示を仰いでいる。	○	今後も継続
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員がお見舞いに行き、医師や担当看護師、ご家族と情報交換しながら退院支援している。	○	今後も継続し、利用者やご家族が安心できるよう連携し対応する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応まだしていない。	○	今後も継続
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時の支援協力体制はできている。(併設施設看護師)	○	今後も継続
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所に移られる場合、当グループホームでの支援状況を伝達し、情報交換を行っている。	○	今後も継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないよう、さりげなく声がけするようにしている。気になる言葉かけがあった場合には、リーダーが確認指導している。	○ 個人情報に係る記録等は、人目に触れないように保管。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	誕生会メニューの選択。 外出行事についても、希望の場所を訊いて決定している。いくつかの選択肢用意し自己決定への支援している。	○ 今後も継続して、一人一人の意思を尊重し、自己決定や希望を引き出し場面作りをしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として草取りされる方あり、声がけしながら見守っている。家事参加も、本人のペースでできるよう見守りながら行っている。	○ 一人一人のペースを大切にしながら、役割ややりがいを見出せるよう支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ワンピースが着たいとの希望あれば着れるよう支援している。散髪についても、家族が面会兼ねて散髪に来られたり、スタッフが送迎し、出かけるようにしている。	○ 本人の好みに配慮している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や、自分たちの畑で収穫した野菜を囑託に並べている。野菜の皮むきや、おにぎり作り、すいとんなど、利用者と一緒に食事作りしたり、後片付けも全員で流しまで運んでいる。個々の能力に応じ役割分担できており、声がけと見守りしながら後片付けしている。	○ 今後も継続。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みに応じ、メニューの変更することある。例:シチューをカレーに。牛乳をココアになど。 買い物しながら食べたいものがあれば、そこでもメニュー変更。 手作りおやつ好評である。	○ 状況に合わせて柔軟に対応する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表をもとに排泄パターンを把握。リハビリパンツ使用からびったりパンツ(布製)にパット併用となった方二名。外に行きたい→便意の表れと言うようなサインを見逃さないよう観察支援している。	○	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	あらかじめ職員側で曜日や時間の設定をしているが、その日の健康状態や気分で変更している。季節によって菖蒲湯やゆず湯など行っている。	○	失禁等で拒否されることもあり、強制せずタイミングを見計らい再度声掛けするなどの対応行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室に三帖の畳あり、布団で休まれる方いる。生活リズムを整えるよう日中の活動を促している。眠れない時には、無理に居室ではなく職員の側で過ごしていただいたり、添い寝している。	○	一人一人のリズムに合わせた休息や安眠を促す。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々の能力や得意とするものが発揮できるよう役割の支援をし、感謝の言葉をかけるようにしている。食事作り、裁縫、草取りなど。広告でゴミ箱作りしていただき、食事やおやつの際に使わせていただいている。文化祭の出展作品として布草履作りした。	○	本人の「できること、できないこと」を把握し、潜在能力を活かせる機会を増やす。また、引き出す努力をする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、安心して生活できている利用者もいる。夏祭りや文化祭など、個々に財布にお金を準備し、好きなものを買って食べられるよう支援している。	○	今後も継続
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、外出の機会つくるようにしている。帰宅願望強い方と、自宅までドライブ。誕生日に一緒にケーキを買いに出かけた。	○	ふるさと巡りなど、本人の希望に添えるよう外出支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの外出支援している。お花見、つつじ見物、紅葉見物、初詣、白鳥観賞など。墓参りや、お盆・正月の外泊。兄弟家族との食事会など希望により行っている。	○	今後も継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	娘さんの誕生日や、贈り物のお礼など、本人の希望で電話の支援行っている。また、お礼の手紙を代筆。	○	今後も継続
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人、友人など気軽に訪問して下さっている。訪問時には、居心地よく過ごせるよう居室へ案内したり、お茶を出すなど雰囲気作りしている。	○	今後も継続
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを実践している。	○	今後も継続
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関の鍵はかけていない。センサーの設置により外に出られたときは見守っている。	○	起床時に全開錠、夕方夜勤者が戸締り確認。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りをし、安全に配慮している。夜間も定期的に見回りし、状態の把握に努めている。	○	今後も継続
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ナイフ・ハサミなど危険なものは職員側で保管している。どうしても使いたい、持っていたいという利用者があり、職員間で検討し、居室に置いている。	○	状態に応じて検討し、対応する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを含め、事故報告書を作成し、原因や予防策について、再確認している。	○	研修会参加や勉強会にて知識を共有し、事故防止に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの整備。研修会参加職員による報告・勉強会の実施。	○	定期的な勉強会の実施。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施。マニュアルの整備。	○	定期的な避難訓練の実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入浴時、浴槽への移動困難な方には、職員二人で対応している。認知症であることで起こりうることをご家族に説明し相談しながら対応している。	○	今後も継続
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲や顔色、表情など些細な変化も見逃さないよう早期発見に努めている。気づいたことは、ミーティングで職員間で共有している。	○	日々の観察を怠らず、状態変化や気づきは記録として残す。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容、副作用などをファイルにまとめて確認している。服薬の際は、本人のものか確認し、直接手渡している。	○	糖尿病の方もおり、食べ物等にも配慮している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に、乳製品(ヨーグルト、牛乳)の摂取に努めている。水分摂取に努める。必要に応じ、下剤使用。	○	今後も継続
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、及び介助行っている。夕食後には、義歯洗浄し、口腔内の清潔に努めている。	○	今後も継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>各々の状態により、粥食や減量による対応している。水分摂取についても、コーヒー、お茶、ジュースなど、個々に摂取しやすいよう対応している。併設施設の管理栄養士に献立の定期的な確認お願いしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアル作成、勉強会の実施。毎食前のうがいと手指消毒の徹底。ペーパータオルの使用。インフルエンザ予防接種。嘔吐物、排泄物は袋に密閉し捨てている。(ノロウイルス対策)</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具(まな板、包丁、布巾など)は、都度、ハイターによる消毒、除菌し衛生管理に努めている。毎日買い物に出かけ、冷蔵庫の食材点検も頻繁に行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>ベンチやプランターに花を植えている。玄関内にも腰掛を設置しており、足腰の不自由な方でも安心して出入りできるよう配慮している。夏の花火大会には、縁側を開放。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節毎の装飾や、陽射しが強くないように天井にもカーテンを付けたり、すだれをかけたたりしている。食事を作る音や匂い、音楽を流したりしている。季節の慣わしも利用者の方から教えていただきながら行っている。菖蒲湯、ゆず湯、お月見、ひな祭り他。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール内に三箇所長いす設置。炬燵の間もあり、思い思いに過ごしている。日光の差し込む所で、日向ぼっこをしながら読書を楽しまれている方もある。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れたもの、馴染みの物を飾っている。携帯のラジオを居室で聴いている。	○	今後も継続
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気適宜行っている。冬期間は加湿器や濡れタオルで乾燥予防。	○	今後も継続
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はほとんどなく、ホール内手すりも付いている。歩行器や車椅子を本人の状態に応じて使用している。	○	今後も継続
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室、居室など大きく表示。各居室に表札のように名前をつけ、姿勢の低い方には、見える位置にもつけている。又、本人の写真を掲示。	○	夜間は、安全で安心してトイレに行けるよう、居室前の電気を点けておく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のプランターに花を植え、利用者と水やりをしたり、畑づくりや、草取り、縁側での日光浴や干し柿作り、切干大根作りなど、季節ごとに楽しんでいる。	○	今後も継続

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと、のんびりと過ごしている。
- ・馴染みの季節の慣わし等を利用者主体で行っている。(お彼岸:おはぎ、ぼた餅、小正月:みずき団子、お月見、梅干作り、葉焼き作り、流しそうめん、菖蒲湯、ゆず湯、干し柿作りなど)
- ・慣れ親しんだ地域との関わりを継続しながら、本人らしく生活できるよう支援している。(ふるさと巡り、墓参りへの外出など)
- ・外出することにより、季節感を味わっていただいている。(初詣、お花見、つつじ見物、花火大会、紅葉見物など)
- ・隣接するベビーホームの子供達との交流がある。
- ・本人の能力が発揮できるよう、また、生きがいを持って生活できるよう支援している。
- ・畑で野菜を作ることで、収穫の喜びを感じたり、それを食事に利用したりしている。